

通学路総合交通安全マップのすすめ

子供たちが登下校時に利用する通学路には、危険ポイントがいろいろあります。関係者で話し合い、地域の実態を把握しながら、危険認知マップ・対策マップを作成し、地域の特性や住環境、まちづくりに応じた安全策を検討しましょう。



【危険認知マップ】

-
- ①校門の出入口
 - ②抜け道
 - ③通学路の交差点
 - ④幹線道路交差点
 - ⑤見通しの悪い交差点
 - ⑥スピードが出やすい道
 - ⑦直線道路
 - ⑧自転車



その1

危険ポイントを
チェックできたら？



【対策マップ】

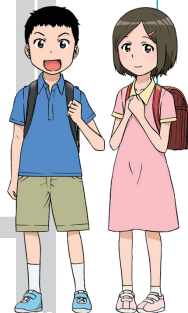
-
- ① [スムーズ横断歩道]
 - ② [ライジングボラード]
 - ③ [スムーズ横断歩道]
[スクールゾーン]
[ゾーン30]
 - ④ [歩車分離信号]
[防護柵]
 - ⑤ [ハンプ(交差点)]
 - ⑥ [ハンプ(直線部)]
[狭さく]
 - ⑦ [スラローム] [クランク]
 - ⑧ [自転車レーン]



対策についての
詳細はホームページ
をみてね♡

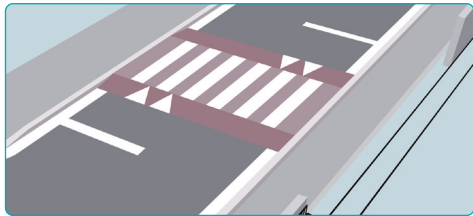
その2

対策を
検討しましょう。



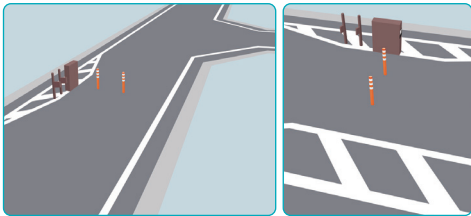
①通過車両の進入対策

学校正門前など、登校時に子供たちが集中する場所は、スムーズ横断道路などの対策によって、ドライバーの意識づけと速度抑制を促す。



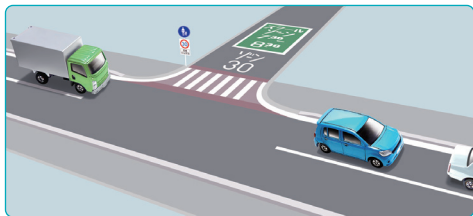
②許可車以外の進入禁止・時間帯制限

ライジングボラードの導入により、子供たちが集中して通る道への許可車以外の進入禁止・時間帯で制限する。



③学校近接エリアの出入口

歩行者優先を明示するスムーズ横断歩道の導入、ゾーン30による速度規制やスクールゾーンによる登校時間帯の進入禁止など、面的対応策を実施。



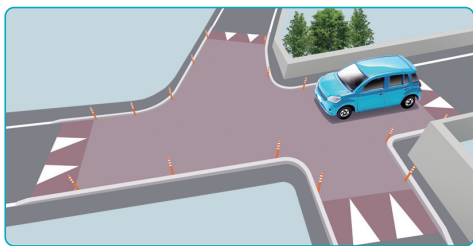
④幹線道路交差点

歩行者横断時に車両をすべて停車させる歩車分離信号の導入と併せて、車両の飛び込みを防止する防護柵の設置を行う。



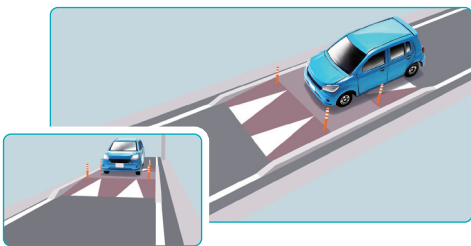
⑤見通しの悪い交差点

交差点全体をハンブ形状にし、車両の速度を抑制する。



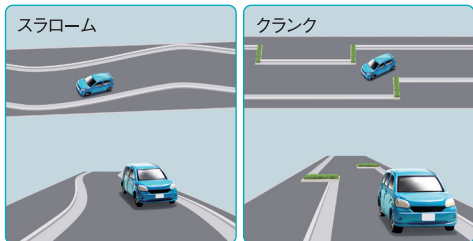
⑥速度の出し過ぎ

道路をハンブ形状にして車両の速度を抑制、同時に狭くを設置することで、ドライバーに最徐行を促す。



⑦直線道路

ドライバーが速度を上げやすい道は、スラロームやクランクなど、視覚的な速度抑制を促すよう道路構造を工夫する。



⑧自転車対策

通学路の安全を確保するため、自転車レーンの設置で通行区分を行う。

